

檜山管内7町が連携、 『ひやま』をPR!

2月25日から26日にかけて、「ひやま」の観光や特産品をPRする「食・観光フェア」が東京都大田区で開催され、檜山管内7町が連携して物産販売などを行いました。会場となったJR蒲田駅前の東急プラザでは、1階の広場と7階フロアで特産品などが販売され、本町からは「あわびの酒蒸し」や「ひらめのフライ」といった料理のほか、「根ほつけ」や「鮭の飯寿司」、「ふっくりんこ」など、海の幸と山の幸を豊富に取り揃えたラインナップとなりました。

東京の方々にとって、北海道は知っていても、檜山とそれを構成する7町の知名度はまだ低いのを実情ですが、関係者にお話を伺うと「フェアでの各町特産品の売れ行きが好調だったことから、今後はさらに知名度アップに努め、販売を拡大していきたい」と話し、美味しい特産品を手にとってもらい、各町の観光スポットを訪れてもらえるよう、こうしたPR活動を継続して実施していくとのことでした。



園児たちの思い通じる 羽化を迎えたアゲハ蝶

3月1日、河北保育所において、一足早く蝶が舞いました。羽化したのは、色鮮やかな羽を持つアゲハ蝶で、園児たちが昨年秋の草むしりで捕まえ、その頃から草を与えたり、暖かい部屋に虫かごを置くなど、冬の寒さで死なないように大事に育ててきました。

園児たちは、年が明けて青虫がエサを食べなくなり、ほとんど動かなくなっていたことから、春を前に死んでしまうのではないかと心配していたようですが、無事羽化したアゲハ蝶の姿を見て、「羽がキレイ!」「いつ飛ぶの?」と嬉しさもひとしおの様子でした。



上ノ国カルタ 上高生が製作中

3月9日、上ノ国高校において、地域の歴史や文化などに関する言葉を用いたカルタ制作が行われています。

これは、教育委員会が推進する「歴史文化基本構想」の一環から、ふるさとの歴史と文化を楽しく学べる教材を作ろうと進められているもので、この日は五・七・五で整えられた句が、同高校の授業で発表されました。

カルタ制作には、上ノ国観光ガイド協会（岩田靖会長）などが協力し、生徒たちともに知恵を絞り、最終的には来年度中の完成を目指して、作業が進められる予定です。

また、直接生徒の指導にあたる五十嵐先生にお話を伺うと、「最近の生徒たちは小中学校で地域の歴史に関する教育を受け、知識を持っています。高校では、そこから一歩進み、それらを活かして、何かを生み出す行動力と思考力を身に付けてほしい」と応えるように、カルタ制作に邁進しています。



上ノ国高校へ入学者多数!

3月17日、上ノ国高校の入学試験合格発表が行われ、この春高生となる38名が、新たな学び舎の前で喜びを分かち合いました。

上ノ国高校は、入学者の減少から、存続を危ぶまれていた時期もありましたが、近年は教育内容の充実のほか、保育所・小中学校と連携しての自作教材の作成、古着を収集して難民支援活動を行うなど、学校の枠に収まらない積極性が、地域と近隣の多くの中学生を惹き付けています。

こうして全道で過疎地域の高校入学者が減少を続けるなか、上ノ国高校は年々入学者を増やし、この日は昨年を上回る38名が合格します。これについて、教頭先生にお話を伺うと「部活動の指導陣の充実や、他校に無い課外活動もあり、それらが魅力となっており、地域に選んで頂いていると感じています」と話し、今後とも地域に立脚しながら生徒たちとともに学校が成長していければいいとのことでした。

